

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択必修
担当教員			
永島 徹			
添付ファイル			

講義概要	これまでの認知症についてのオールドカルチャーの認識によるケアから、新しい認知症観を含めたニューカルチャーによる認知症ケアへ更新するために、組織や個人、地域の認知症観を変えるために必要な知識、技術、価値を習得するために、講義、演習を行う。また、ゲストスピーカーによる講話を通じて学習をより深めていく。
各回の進行予定	<p>第1回 認知症ケアの変遷 「医学モデル」から「生活モデル」さらに「統合モデル」に向けた認知症ケアの変遷について、映像を通じて理解する。 ・精神科による治療の時代から地域包括ケア・認知症ケアパスまで。認知症の人への支援方法を学ぶ。 ・ケアなきケアの時代から環境アプローチ時代 ・認知症ケアパス (講義・演習)</p> <p>第2回 認知症ケアの制度変遷 「痴呆」から「認知症」、「病院・施設」から「地域で支える」、「集団ケア」から「個別ケア」、「対象者」から「当事者」へ1980年から1990年、2000年介護保険法施行後、地域包括ケアシステムと認知症ケア、「オレンジプラン」から「新オレンジプラン」、「認知症施策推進総合戦略(認知症大綱)」そして「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の新しい認知症観の理解を深める。</p> <p>第3回 認知症の当事者の声から学ぶ かつての認知症ケアを「恍惚の人モデル」と言い、過度に誤った認知症観を生んだ原因となっていた。しかし、2004年の国際アルツハイマー病協会京都会議でのクリスティン・ブライデン氏の講演をきっかけに、認知症の人が自らの体験を語ることから、当事者による認知症ケアのあり方が問われるようになった。</p> <p>第4回 家族支援 家族の抱える心理的負担の理解と軽減に向けた支援や介護課題に生じる事例を考える。家族支援・多職種連携によるチームアプローチについて学ぶ。 ・家族がたどる心理ステップについて ・多職種協働「認知症ライフサポートモデル」</p> <p>第5回 認知症ケアを実践する上での心構え 原因疾患別(アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症)の認知機能障害の理解と支援、環境の改善 B P S D (行動・心理症状) への支援(身体要因、心理的要因、環境要因、不適切なケアなど)</p> <p>第6回 地域生活支援 インフォーマル、フォーマルケア、地域共生社会と認知症ケアについて実践事例から学ぶ(オレンジカフェからチームオレンジへ) ・近年認知症の当事者が様々な機会を通じて人権のこと、認知症になったことで学んだことなど、貴重な体験を発信している、認知症の人の体験から実際に学ぶ。 ・若年性認知症の人の声を聞き、何が生活上の課題なのかグループワークを通じて考える。</p> <p>第7回 パーソン・センタード・ケア(認知症の人を支援する上での理念) パーソン・センタード・ケアの理解と実践に活かすために、「良い状態」と「よくない状態」満たされていないニーズと5つの心理ニーズを満たすための支援、パーソンセンタードモデルと悪性の社会心理について</p> <p>第8回 ひもときシートとセンター方式シート 「評価的理解」「分析的理解」「共感的理解」ヘリフレーミング、8つの視点での要因分析、ケアプランにつながるセンター方式を用いたアセスメントについて。 ・認知症の人の生活課題を明らかにするため、ひもときシート及びセンター方式シートの活用を学び、具体的な支援展開過程を学ぶ。 ・事例を使ってケアプランの策定まで、介護過程を理解する。</p>
講義のねらいと到達目標	<p>【講義のねらい】 認知症の人やその家族に関わる人が高齢だけではなく、若年性にもみられる時代になっている。認知症は認知機能の低下に伴う暮らしの支障がでてくるだけではなく、差別、虐待、不適切な認知症ケアによる様々な権利侵害の危険性がある。そこで、社会福祉実践者は身近な地域で誤った認知症観を抱く一般の人や認知症ケアに携わる専門職に対して、認知症を抱える当事者とともに啓発活動に努めていかなければならない。 本講では、認知症ケアのこれまでの歴史や制度変革、当事者主体の社会を実現させる取り組みなどを学ぶことで、認知症とともに生きる人と家族、支援者、地域住民が安心して生きることのできる社会づくりの実践を目指す。</p> <p>【到達目標】 ・パーソン・センタード・ケアについて理解し実践に繋げることができる ・認知症の原因疾患と認知機能障害を理解し生活障害を支援できる。 ・脳機能の発達と可能性について理解ができ、生活支障の具体的なアシストができる。 ・ひもときシートを活用し、複雑な行動障害を要因分析することで改善に繋げることができる。 ・認知症をかかえる当事者の声を聴くことでケアのニーズを明らかにすることができる。</p>
指定教科書(テキスト)	特に定めない。毎回講義資料を配布する。

ト)	
参考文献・関連URL等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮島渡、大久保幸積『認知症ケアの視点が変わる「ひもときシート」活用ガイドブック』（中央法規出版, 2013) 2. 『認知症介護実践者研修』（中央法規出版, 2022) 3. 水野裕『実践パーソンセンタードケア』（ワールドプランニング, 2008) 4. 恩蔵絢子、永島徹『認知症の人はなぜ家に帰りがたがるのか』（中央法規出版, 2022) 5. 永島徹「認知症の人の世界を知ろう！」（動画：認知症スタジアム）https://www.youtube.com/watch?v=Yezt1C_Xv7c
出欠確認方法	<p>教員による目視ならびにリアクションペーパーにて確認する。3回以上欠席した者の単位認定はできない。リアクションペーパーは、毎回、提出すること。</p>
成績評価の方法	<p>評価は到達目標の達成状況を踏まえて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加姿勢（2.5点×8回＝20点） ・リアクションペーパーの記載内容（5点×4枚＝20点） ・事後課題レポート（60点）
成績評価基準の内容	60点以上を可とし、60点未満の場合は不可とする。
事前・事後学習のためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は、「講義」⇔「事例」を繰り返し、教員や学生との対話を通じて学びを深める。 ・リアクションペーパーでの質問は授業に反映するので積極的に質問を提出すること。
他の科目との関連、教育課程の中での位置づけ、キーワード	<p>他の科目との関連：「高齢者支援・医療分野事例研究」、「共生社会の仕組みとデザイン」、「在宅療養支援の方法」</p> <p>【認定社会福祉士研修認証科目】</p>
ベンチマーク	<p>この科目で獲得を目指すディプロマ・ポリシーについて次のように優先順位を位置づけています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イ 理論と実践の両面にわたる能力を備えている者 2. ア 福祉実践とその現場の創造的な発展に必要な基本的な知識を修得した者 3. ウ 価値を基盤とした職業的倫理を深く理解した実践的な専門的職業人である者